

# 平成24年度 市政に関する意識調査

## ～福岡市の環境～



# 調査概要

- ◇調査地域 福岡市全域
- ◇調査対象者 市内に居住する満20歳以上の男女
- ◇標本数 4,500サンプル
- ◇抽出方法 住民基本台帳による二段階無作為抽出法
- ◇調査方法 郵送法
- ◇調査期間 平成24年8月17日（金）～8月31日（金）
- ◇回収数 2,352サンプル 回収率52.3%

## ◇質問項目

### ★《全般的なことについて》

周辺環境、日ごろの取組み、環境活動の参加状況、環境団体の認知度、関心のある環境問題、情報の入手方法 等

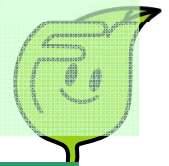
### 《再生可能エネルギーについて》

再生可能エネルギーに関する認知度・導入状況・導入意向・今後の取組み 等

### 《ごみ・リサイクルへの意識、取組について》

ごみ減量・リサイクル（3R）・マイバッグ持参の関心度・取組み状況、ペットボトルのキャップ 等

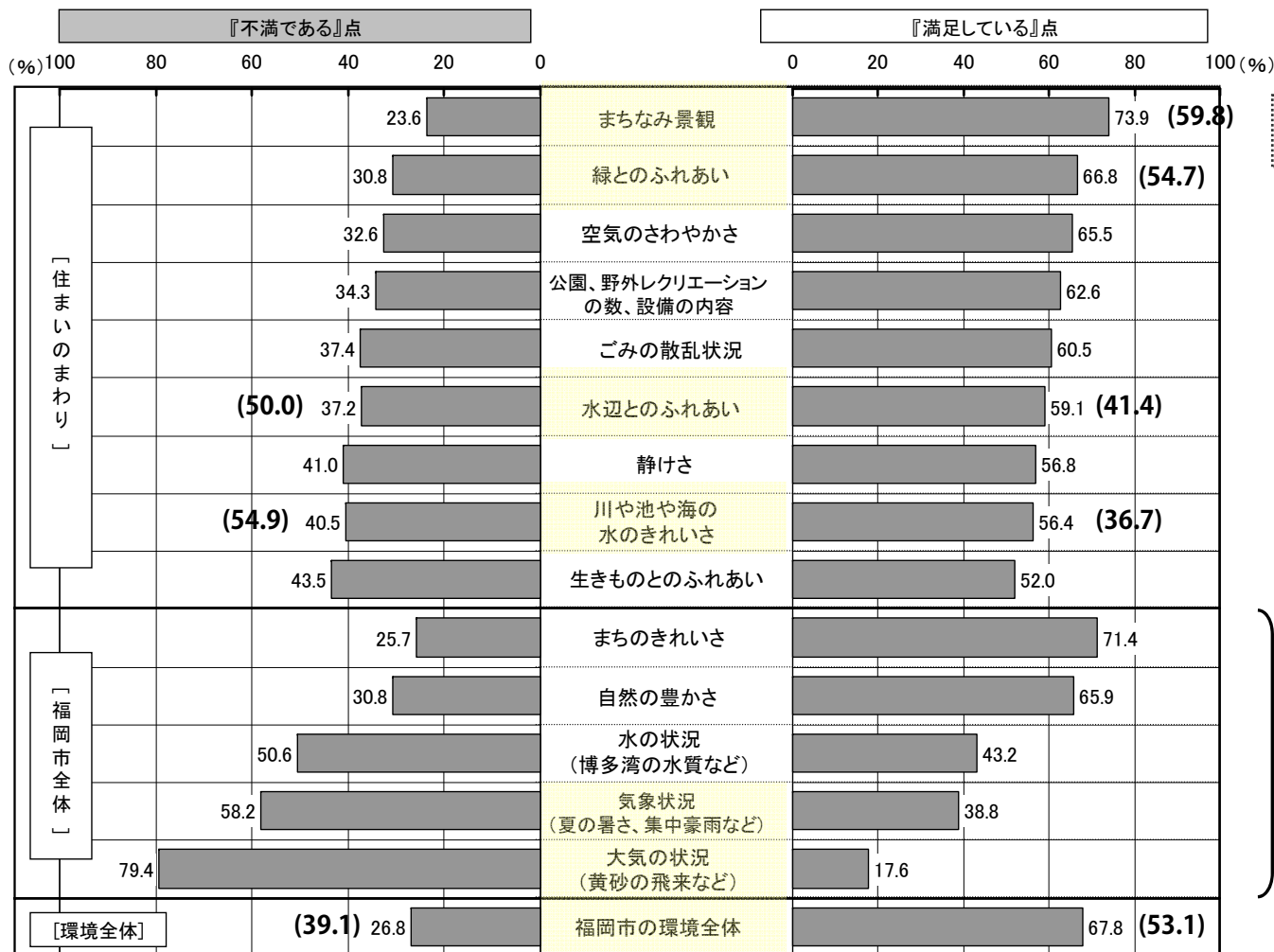
### ★《東日本大震災前後の意識や行動の変化について》



# 周辺環境について（現在）

POINT

○景観などまちなみ・まちのきれいさには高評価 ○水・気象状況・大気状況については不満多し ○H16と比較するとほぼ満足度アップ



( )内はH16年調査結果

質問項目変更のため  
H16との比較なし

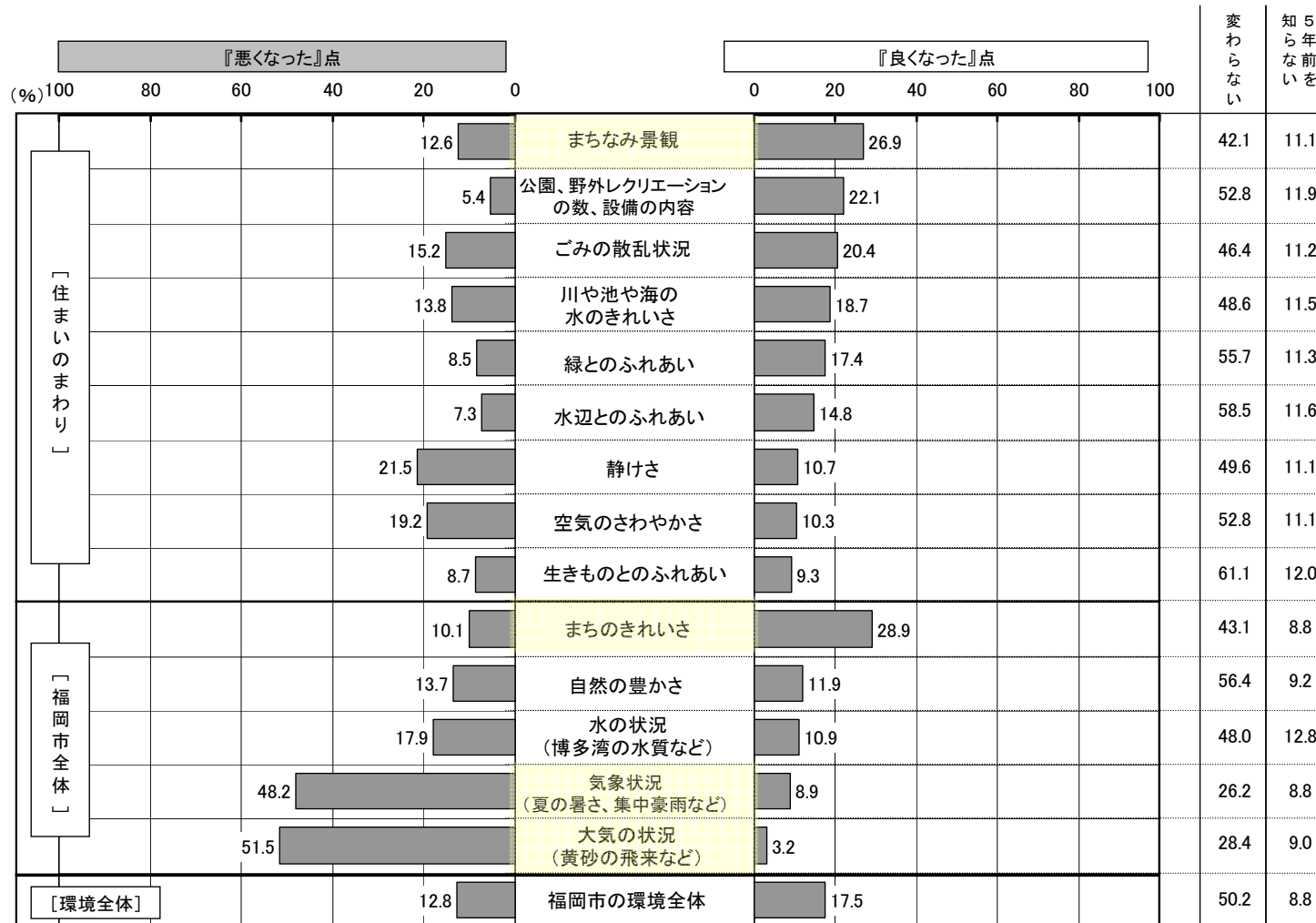
全体(N=2,352)



# 周辺環境について（5年前からの変化）

POINT

現在の満足度と同傾向（まちなみ・まちのきれいさには高評価、気象状況・大気状況については不満多し）



全体(N=2,352)



# 日ごろ実行していること／今後実行したいこと

POINT

○上位5項目は90%を超えており習慣化している ○実行率が低い「環境配慮商品の購入」や「緑化」についても今後の実行意欲が高い  
 ○H16と比較すると、マイバッグと古紙回収の取組みが大幅アップ。『実行したい』については、ほとんどの項目で10ポイント以上アップ

実行していること		実行したいこと	
97.8%	ごみの分別や出し方のルールを守っている	94.4%	
97.3%	近所の迷惑にならないように騒音に気をつけている	94.0%	
96.8%	使用していない照明や電気製品を消すなど、節電に気をつけている	94.0%	
96.5%	水を出しっぱなしにしないなど、節水に気をつけている	94.1%	
93.8%	台所で、食用油や食べ残しを排水口から流さないようにしている	93.2%	
89.7%	血洗いや洗濯の時に、洗剤を使いすぎないようにしている	92.2%	
89.3%	物を無駄にしないことを心がけて、ごみを出さないようにしている	92.9%	
82.4%	エアコンの温度は、冷房28℃以上、暖房は20℃以下に設定している	87.7%	
(67.0)	82.2%	買い物のとき、マイバッグを持参するなどして、レジ袋を断っている	88.5%
82.2%	同じものであれば、近くでとれた農産品を買う	88.6%	
(55.4)	81.8%	古紙等は、地域集団回収等へ持って行くようにしている	88.9%
79.1%	外出の際には徒歩や自転車、電車などの公共交通機関を利用している	85.2%	
71.2%	不要なアイドリングや空ふかし、急発進などをしないようにしている	77.5%	
56.2%	環境に優しい製品を購入するよう心がけている	82.4%	
41.5%	屋上や壁面、ベランダの緑化に取り組んでいる	68.8%	

( ) 内はH16年調査結果

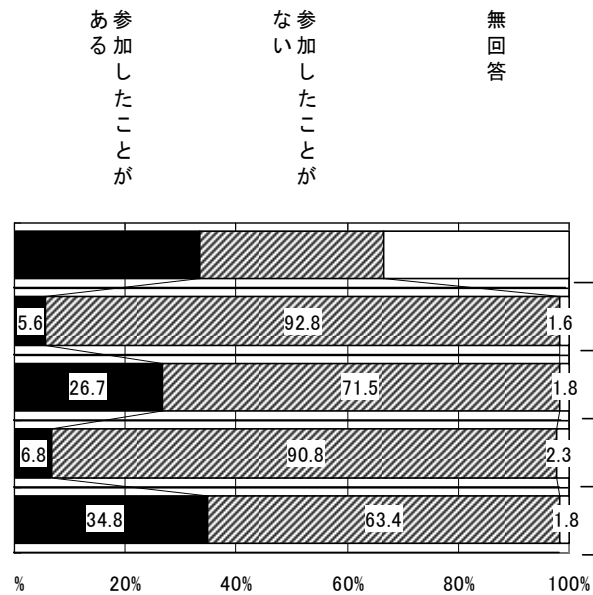


# 環境活動への参加状況

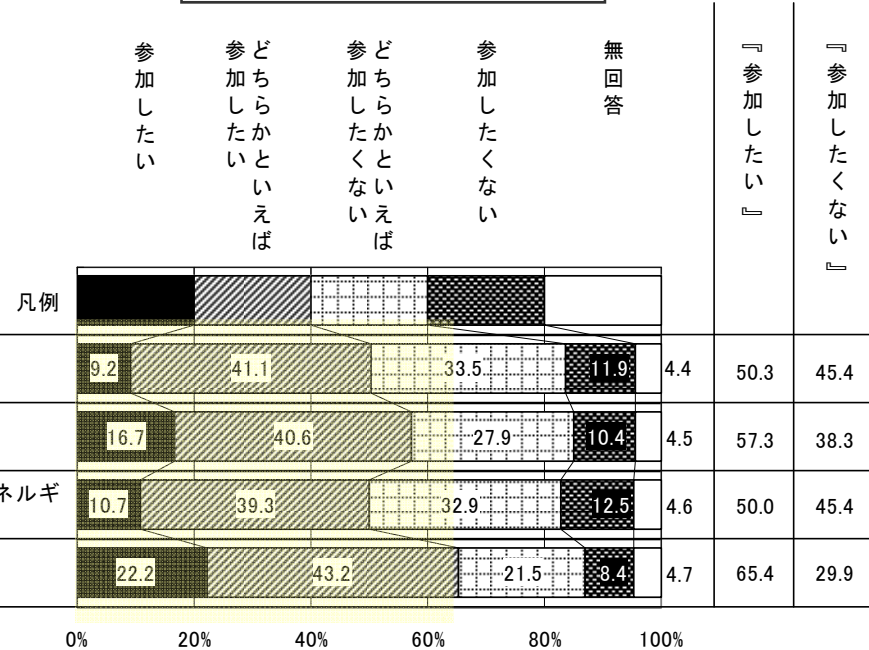
POINT

おおむね5割以上が、今後の参加意向を有しているが、「参加したい」の割合は低め

5年以内の参加経験



今後の参加意向

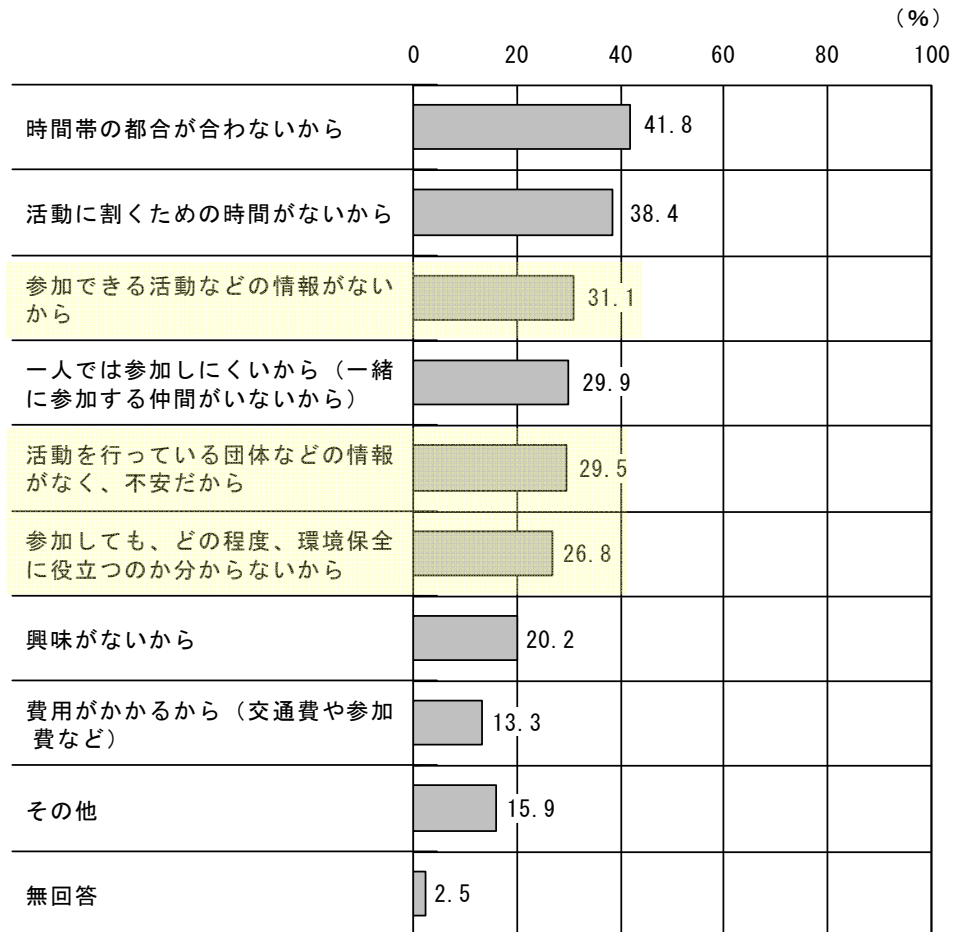


# 活動に参加したくない理由

6

POINT

時間の都合の要因のほか、団体も含め、活動の情報不足が挙がっている



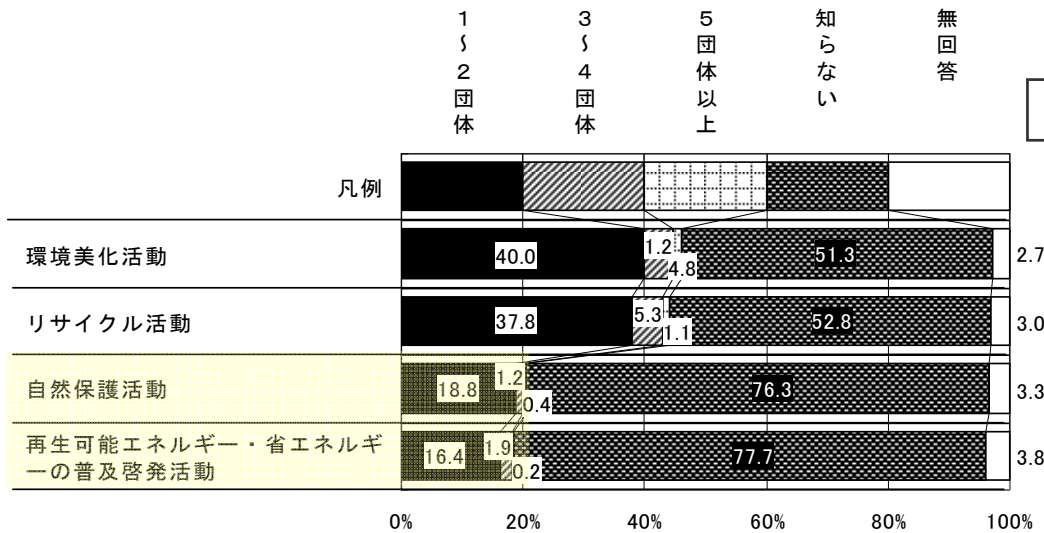
全体 (n=1,305)



# 環境団体の認知度／活動についての認識の変化

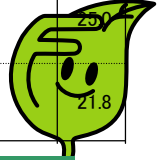
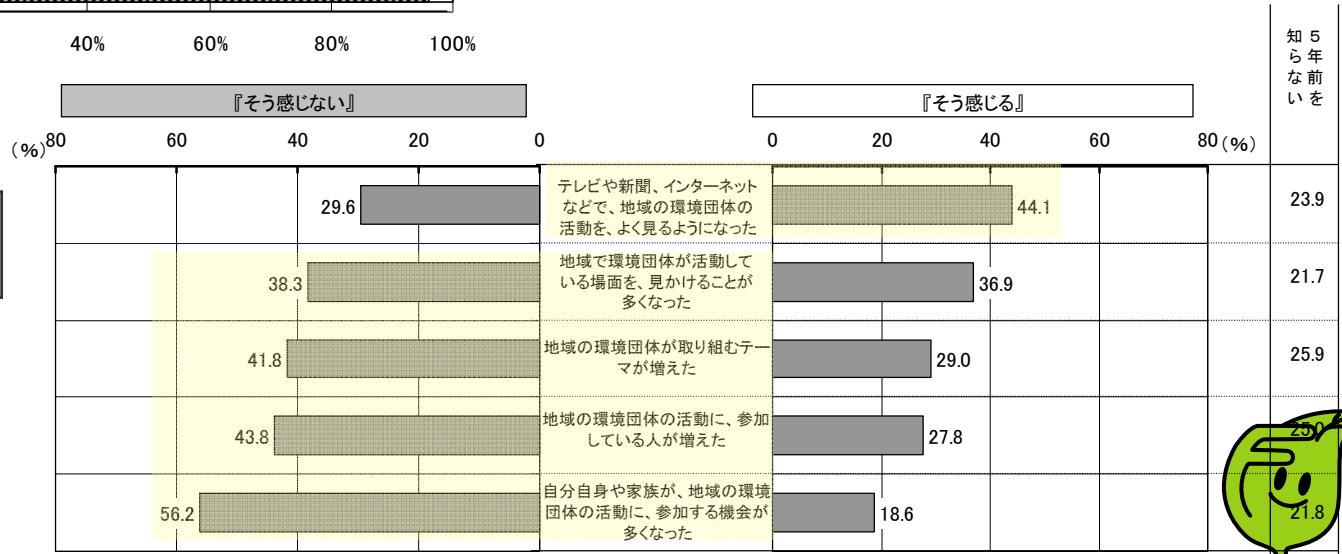
POINT

○環境美化やリサイクルに関する団体については約半数が知っているが、他の分野はまだ認知不足  
 ○活動については5年前と比べ報道・メディアでの露出は増えたが、身近な地域での活動はまだ認知が低い



環境団体をどのくらい知っているか

環境団体が行う活動の5年前からの変化

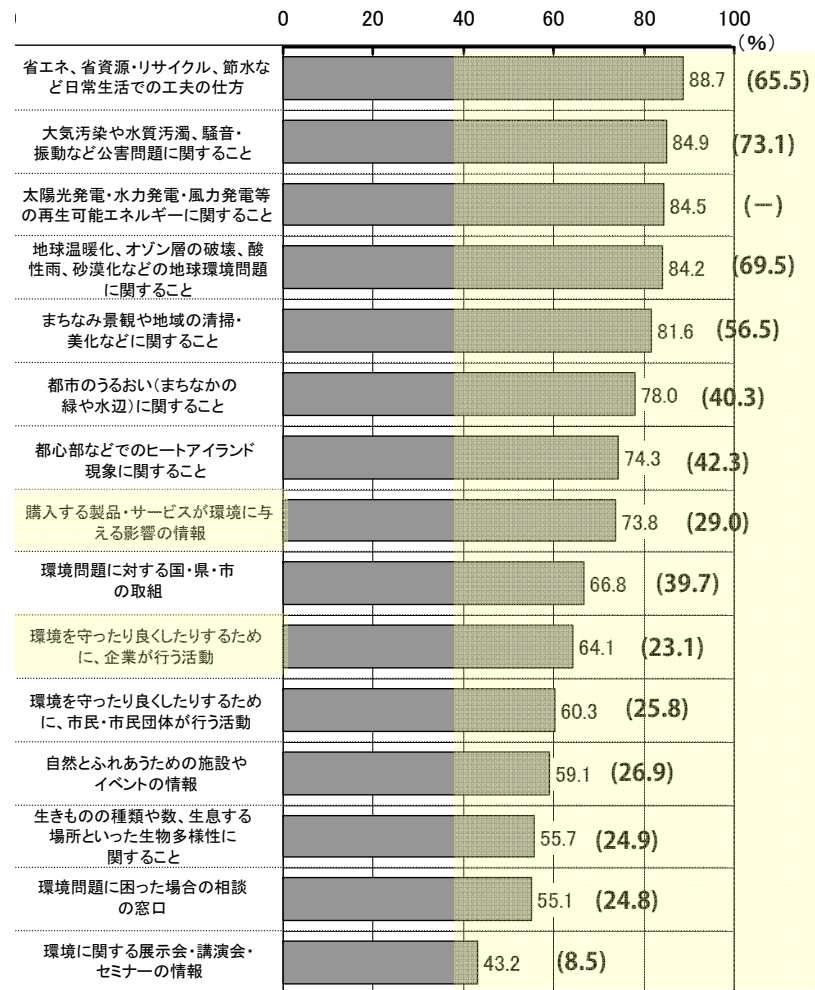




# 関心のある環境問題

POINT

H16と比較すると、いずれの項目も関心度が高い



( )内はH16年調査結果

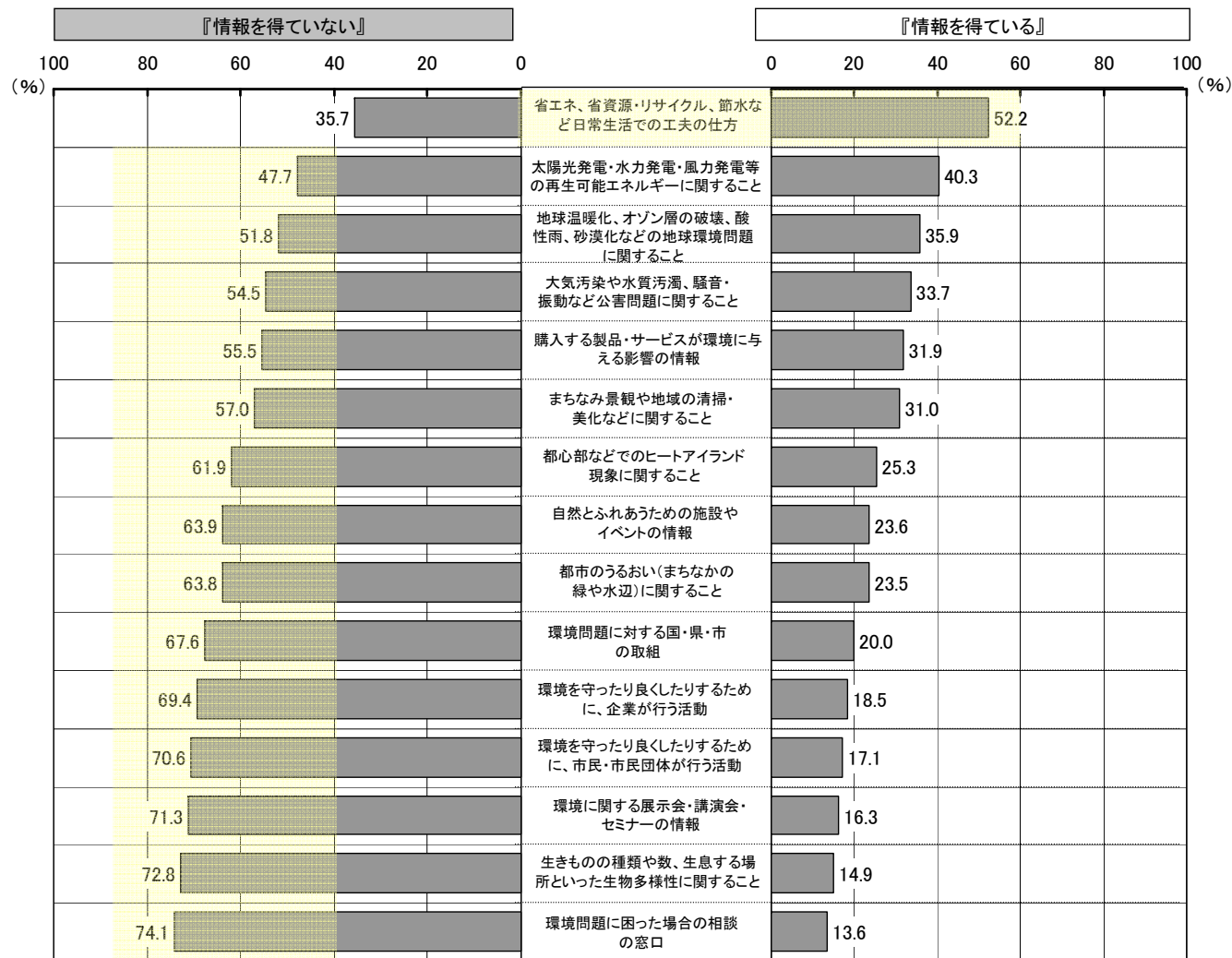
全体(N=2,352)



# 環境問題についての情報の取得状況

POINT

5割を超えているのは、「省エネ・リサイクル等、日常生活での工夫の仕方」のみ



全体(N=2,352)

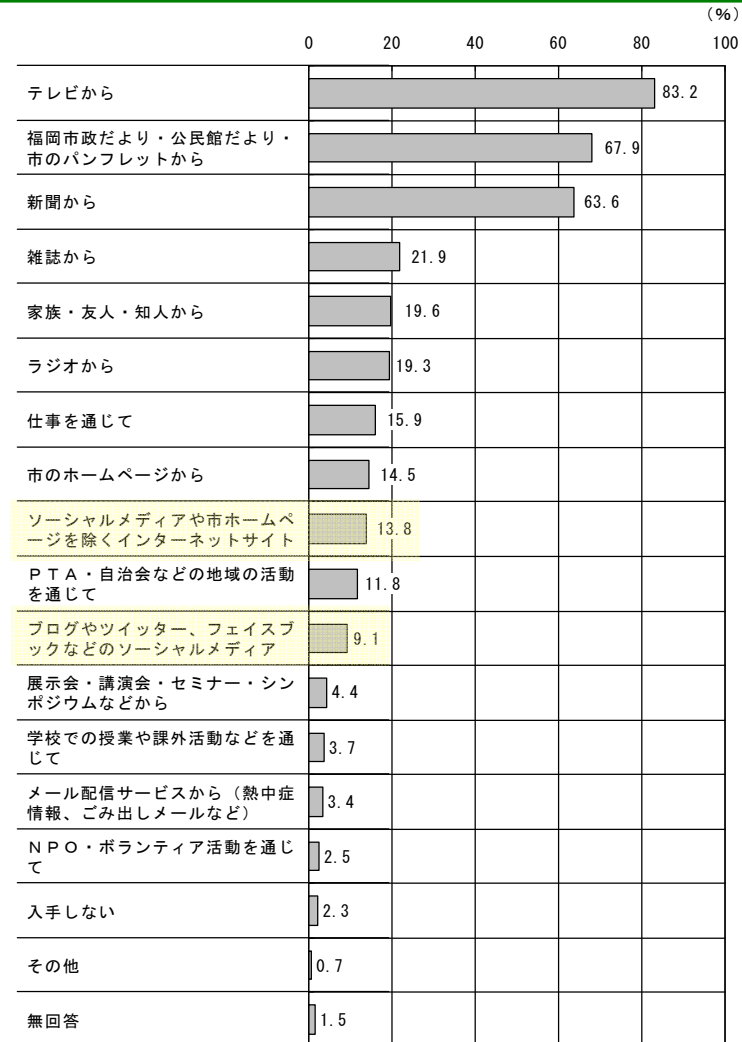


# 情報の入手方法

10

## POINT

テレビ・新聞・市政だより等既存のメディアに加え、ブログ等のソーシャルメディアからも情報を取得



全体 (N=2,352)

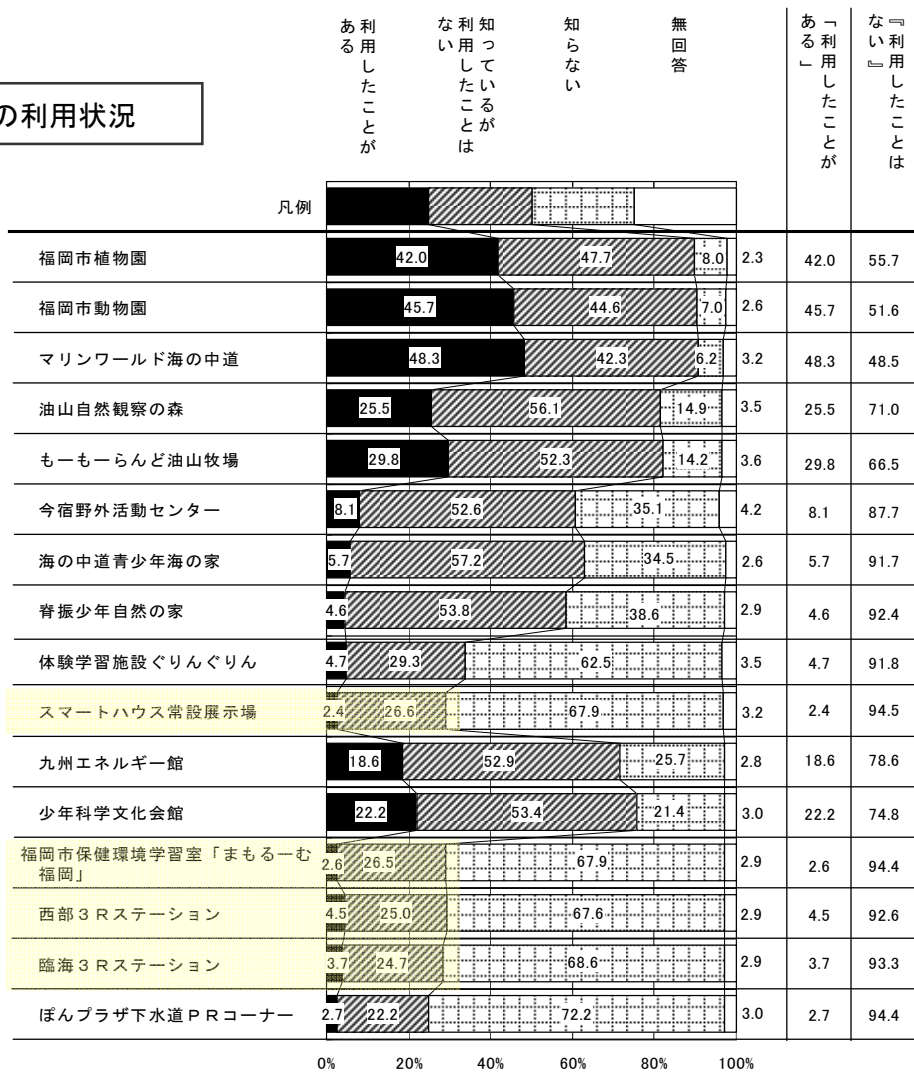


# 環境学習施設の利用状況

POINT

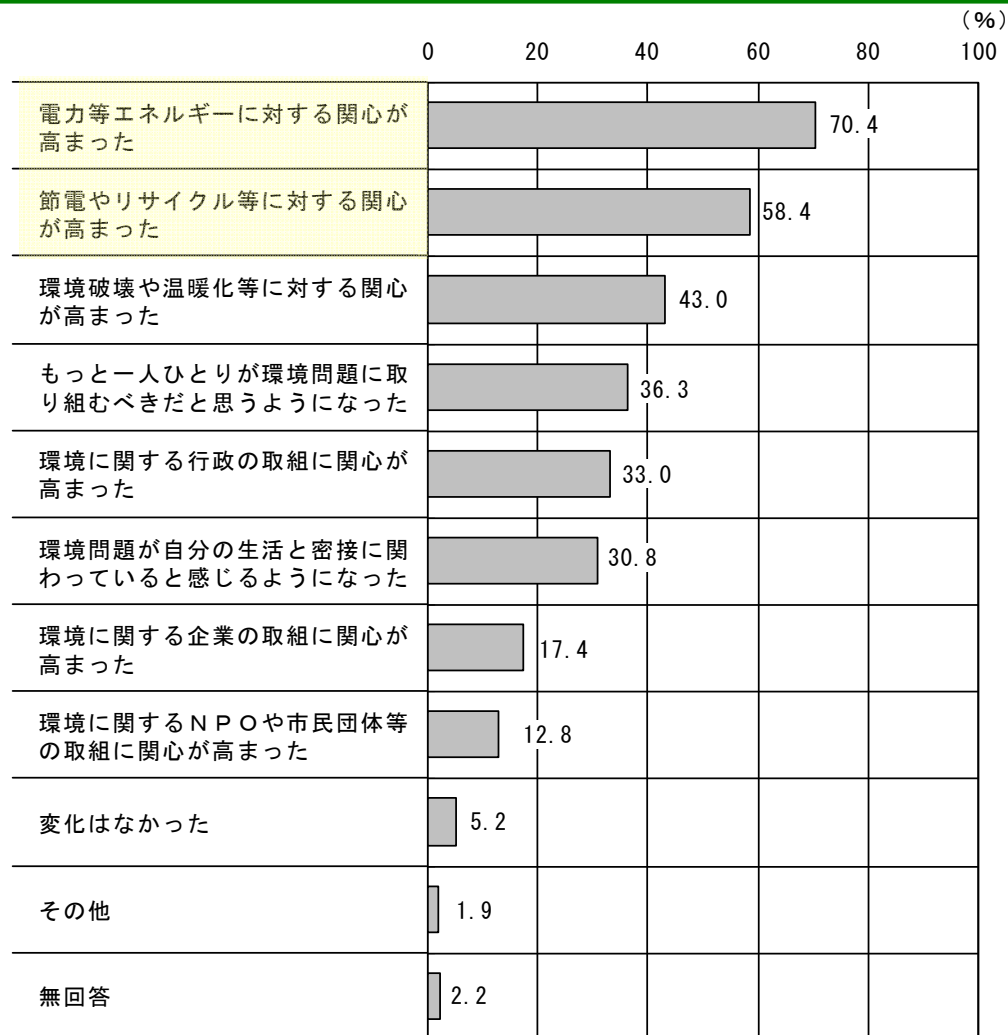
環境に特化した市施設については利用状況、認知とも低い

過去5年以内の利用状況



POINT

「電力等エネルギー」「節電・リサイクル」への関心の高まりが顕著



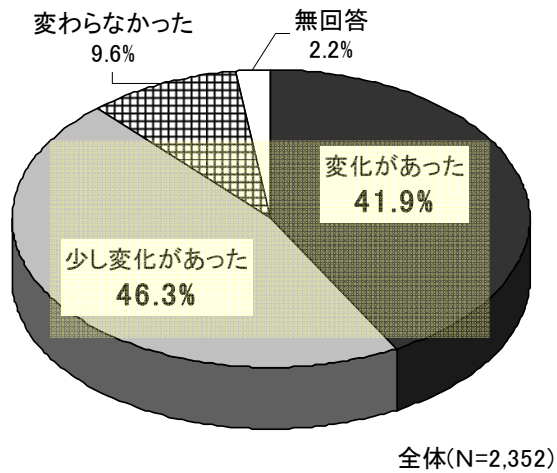
全体 (N=2,352)



# 東日本大震災後の環境に関する意識・行動の変化②

POINT

震災後は、環境への取組みを優先する割合が20%アップ



震災後の環境に関する行動の変化

震災前後での環境への取組と生活の利便性のバランスについて

